

# 国語科学習指導案

日 時 令和4年11月 8日(火) 公開授業 I  
学 級 宮古市立田老第一中学校  
3年 A組 (男子11名 女子7名 計18名)  
会 場 3A 教室  
指導者 小野 純治

## 1 単元名 和歌づくりを通して、奥ゆかしさを表す表現を身に付ける ～自分たちの百人一首を作ろう～

### 2 単元について(学習材について・題材について)

#### (1) 教材観 教材の意義、価値

本単元では、中学校学習指導要領〔第3学年〕の〔知識及び技能〕における「(3) 我が国の伝統文化に関する事項」の指導事項「イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと」また、〔思考力、判断力、表現力等〕の「B 書くこと」の指導事項「エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること」、ならびに「C 読むこと」の指導事項「エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと」について指導する。

本教材は、和歌で詠まれている情景や、当時の風習などを読み取ることで、四季の美しさやそれらに調和した事物などの日本的美意識について触れることができる。また、和歌とは何気ない日常や当時の人々が思い描いていたことを、定型のリズムに合わせ、表現技法や選び抜かれた言葉の組み合わせを駆使することで、より深みのある表現手段となっていることに気付くことができる。

和歌は韻文であるため、繰り返し音読をすることでそのリズムに慣れることが重要である。また、和歌を作る際、限られた文字数の中で思いを伝える重要性に気付かせることができる。そして、直接的な表現を避けたり、たとえで表したりする奥ゆかしさは、社会生活におけるより高次のコミュニケーション手段として活用することができる。本単元において奥ゆかしさを表す表現とは、「表現しようとしていることを伝えるために、直接的にそのものを表す表現ではなく、伝える相手に伝えたい意図が醸し出されたり、情景を想像させたりする表現」と設定する。和歌を作ったり、評価したりする活動を通じて自己の言語感覚を磨き、多種多様な表現や価値観にあふれるこれからの社会を生き抜く力の基礎を身に付けさせたい。

#### (2) 生徒観 生徒の姿、変容を期待する部分

生徒は、興味や関心の対象に対する探究心が高く、疑問に感じたことを積極的に調べたり、質問したりすることができる。また、高い探究心は同時に洞察力にも繋がっており、他者の言動から心情を察知することにも長けている。令和3年度の県学調では「文章の描写に即して登場人物の心情を捉える」が県比+14.1P、「表現の効果を捉えて読む」が+4.3Pと高く、また令和4年度の全国学調においても「表現の技法について理解する」が全国比+6.3P、「事象や行為、心情を表す語句について理解する」が+10.1Pとなっており、機微に触れることを得手としている生徒が多いことがうかがえる。

また、生徒の多くはコミュニケーションをとることを好み、直接的な表現で伝えることができる。さらに奥ゆかしさを意図的に表現しようとすることで、生徒はより幅広い表現力を培うことが期待できると考

える。

### (3) 指導観 手立て、単元としての社会とのつながり → 本校研究との関連

#### ①本校研究との関連

日本語の文法は「主語、目的語、述語」の構成を主としており、述語に至るまでの過程で数々の品詞を駆使し、状況を徐々に詳らかにしながら結論を述べ、自分の最も伝えたい部分を文の最後に位置付けることを特徴としている。そのため、敢えて述語を省き、それまでの文から真意を察する「省略」という表現技法が自然と用いられたり、婉曲的な表現が好まれたりするなど、日本語には独自の「奥ゆかしさ」が備わっている。

近年、対面のコミュニケーションに加え、ICT 機器を用いたオンライン会議等でのコミュニケーションも増えてきている。今後も自分が考えたことや感じたことを直接的に伝える機会が多くなることが予想される。だからこそ、語句や表現を駆使し、意図を醸し出したり、情景を想像させたりする表現を培う言語活動を設定する。そうすることで、意図的により豊かに、そして多彩に言語表現をすることにつながることを期待できると考える。

また、中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）では、語彙指導の改善・充実において「語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である」とされ、さらに「意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語感を磨き、語彙の質を高めること」とも記されている。言葉に関心を持つということは、語感を磨く導入として必然であり、国語の授業を通してそれを指導していかなければならない。和歌を作る学習を通し、社会や人生をよりよいものとするための言語感覚を磨かせたい。

#### ②指導構想

本単元を指導するにあたり、ゴールに設定した単元に位置付けた課題解決的な言語活動「奥ゆかしさを表す表現を用いて、自分たちの百人一首をつくること」を確認する。また、課題解決に必要な力を各単位時間の課題として設定することで、和歌を作るために必要な「口に出した際に心地よく感じる言葉の響き」「題材の切り取り方」などを身に付けていくことも確認する。生徒は、歴史的仮名遣いや古語を用いて和歌を作ることに高いハードルを感じる事が想定されるため、[知識及び技能]における「(3) 我が国の伝統文化に関する事項」の指導事項「イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと」に基づき、自分がイメージする和歌の世界に最も近い作品から「本歌取り」をすることで、和歌の骨組みを得られるようにさせたい。そのため、百人一首に収録されている和歌と訳、詠まれた経緯を生徒用のタブレット端末でいつでも閲覧できる状態にし、帯学習として各授業の導入時にそれらの音読を行い、和歌への関心を持たせる環境を整えていく。

単元の展開部においては、教科書に収録された三大集の和歌を繰り返し音読し、歴史的仮名遣いを読み慣れさせ、和歌に用いられている言葉のリズムを体感させることで、和歌が韻文であることを意識づけさせたい。また、和歌の解釈については、作者が何を見聞きし、それらに対しどのような感情を抱き、どんな言葉や技法を用いて和歌を詠んだのかということの評価しながら行わせたい。

単元の終末では、自分が共感することができた和歌を一種選び、それを参考にしながら自分の和歌を作らせる。その際、声に出して詠む際のリズム、喩えを用いること、切れ字を用いて感動の中心や強調した

い部分を浮き彫りにするなど、使用する言葉にこだわらせたい。そして完成した和歌について、テーマを解説した上で小グループ内で披露し合い、「この感情を表したいのであればこちらの言葉を用いたほうが良い」や「こちらの言葉を用いたほうが、リズムが良くなる」などの相互評価を行わせる。これらの学習を通し、自分にはなかった語彙や、状況にあった表現に気づかせることで、お互いの言語感覚を磨かせていきたい。

### 3 単元の目標及び評価規準

- (1) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、奥ゆかしさを表現するために、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能] (1) イ
- (2) 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、和歌全体を整えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] B (1) エ
- (3) 和歌を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持つことができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C (1) エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力, 人間性等」

評価規準（観点）	
・和歌で奥ゆかしさを表すために、これまで学習してきた多様な語句を意識的に使用しながら和歌を作っている。	[知識・技能]
・和歌で伝える目的や意図に応じ、言葉や表現の効果を考えながら和歌を作っている。(B(1)エ) ・和歌を評価し、自身の言葉に対する見方や考え方との比較を行いながら、言葉に対する考えを広げたり深めたりすることで自身の意見を伝えている。(C(1)エ)	[思考・判断・表現]
・進んで言葉の印象や表現技法の効果について考えたり、テーマに合った言葉を選んだりし、今までの学習を想起して和歌を評価しようとしている。	[主体的に学習に取り組む態度]

#### 4 単元の指導計画

○：指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価 ●：主に指導に生かす評価

時間	学習内容 ◆は留意事項	評価規準（評価方法） 研究に関わる視点□	観点		
			知	思	主
1	<p><b>目標：単元の見通しを持つ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元に位置付けた課題解決的な言語活動である「自分たちで百人一首を作ることで奥ゆかしさを身に付ける」ために必要な学習事項を確認する。</li> <li>◆「本歌取り」による和歌作りを行う旨を説明し、各授業時間で確認する和歌について、詠まれた状況や心情などに着目しながら学習していくことを伝える。</li> <li>・三大集の概要を確認する。</li> <li>・歴史的仮名遣いの読み方に気を付けながら教科書の和歌を音読する。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">ゴールの共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古文特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。</li> </ul> <p>(観察)</p>			
2	<p><b>目標：和歌の表現の仕方を評価し、言葉に関する考え方を深める。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帯学習で百人一首の和歌を音読する。</li> <li>・教科書の和歌を読み、用いられている表現技法や切れ字を確認する。</li> <li>・言葉の響きの美しさや、表現技法の効果について感想を書く。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">問いの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌の現代語訳や語注などを手掛かりとしながら作品を読み、描かれた情景や登場人物の心情を想像している。(C(1)エ)(ロイロノート)</li> </ul>		● (3)	
3	<p><b>目標：和歌に詠まれた情景や心情をとらえ、選ばれた言葉の美しさ・奥ゆかしさに気付く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帯学習で百人一首の和歌を音読する。</li> <li>・三大集の和歌から一首を選び、現代語訳をもとに、「筆者がなぜその言葉を選んだのか」「なぜその表現技法を用いたのか」を分析する。</li> <li>◆百人一首で馴染み深い、在原業平</li> </ul>	<p style="text-align: center;">問いの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで時代背景を確認しながら和歌を分析し、学習課題に沿って言葉の美しさについて考えようとしている。</li> </ul> <p>(観察・ロイロノート)</p>			○

	「ちはやぶる～」を用いて、分析の例を示す。また、教科書に掲載された和歌について、時代背景などの情報を生徒用のタブレット端末で閲覧できるようにする。			
4	<p><b>目標:</b>選んだ和歌を分析したことを小グループで発表し、言葉への関心を深める。</p> <p>◆小グループについては、令和4年度の全国学調において「聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する」「表現の技法について理解する」の正答率が高い生徒を必ず一人ないしは二人を配置し、グループの思考が停滞しないよう配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帯学習で百人一首の和歌を音読する。</li> <li>・前時で行った和歌の分析結果を小グループ内で交流する。</li> </ul> <p>◆考えたことや感じたことをグループ内だけのものにせず、生徒用のタブレット端末に提出させ、学級全体で考えの共有化を図らせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な分析結果を読み、その中に表れているものの見方や考え方から人間、社会、自然などについて思いを巡らせ、自分の考えを記述している。 (C(1)エ)(ロイロノート)</li> </ul>	○ (3)	
5	<p><b>目標:</b>百人一首の中から本歌取りをする一首を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帯学習で百人一首の和歌を音読する。</li> <li>・学校生活や日常生活などからテーマを選び、それらを表現するイメージに最も近い和歌を選ぶ。</li> </ul> <p>◆「風景」「心情」「出来事」「恋愛」など、百人一首には多種多様なテーマがあることを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで日常生活などからテーマを考え、自分の感じたことや考えたことなど表すのに適した和歌を見つけようとしている。(観察)</li> </ul>		●

6	<p>目標：自分が選んだテーマに沿って、言葉や表現を選びながら和歌を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帯学習で百人一首の和歌を音読する</li> <li>・前時までに学習してきた「心情や状況を表す語の選び方」「表現技法の効果」などを参考にしながら、本歌取りを用いて和歌を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌で奥ゆかしさを表すために、これまで学習してきた多様な語句を意識的に使用しながら和歌を作っている。(ロイロノート)</li> <li>・和歌で伝える目的や意図に応じ、言葉や表現の効果を考えながら和歌を作っている。(B(1)エ) (ロイロノート)</li> </ul>	○	○ (2)	
7 本時	<p>目標：作った和歌を評価し合い、より奥ゆかしさが伝わる表現に推敲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小グループ内で和歌を相互評価し、テーマに対して選んだ言葉や用いられている表現技法について意見を交流する。</li> </ul>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">問いの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌を伝える目的や意図に応じて作り、評価されたことを基にして自分の和歌を推敲している。(B(1)エ)</li> <li>・進んで言葉の印象や表現技法の効果について考えたり、テーマに合った言葉を選んだりし、今までの学習を想起して和歌を評価しようとしている。 (ロイロノート)</li> </ul>		○ (2)	○
8	<p>目標：単元の振り返りを行い、どんな力がついたかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時で評価を行った和歌を、生徒用のタブレット端末を用いて読み合う。</li> <li>・単元の学習を振り返り、どんな力が身に付いたか、その力を今後の生活でどう生かしていきたいのかを考える。</li> </ul>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">振り返りと評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌を評価し、自他の言語に対する感じ方を比較しながら、言葉に対する考えを広げたり深めたりしている。 (C(1)エ) (ロイロノート)</li> <li>・進んで日頃自分たちが使っている言葉に対して興味・関心を持ち、言葉への理解や認識を深めようとしている。 (ロイロノート)</li> </ul>	●	○ (3)	○

## 5 本時について

### (1) 本時の目標

- ・和歌を伝える目的や意図に応じて作り、評価されたことを基にして自分の和歌を推敲することができる。  
[思考力, 判断力, 表現力等] B(1)エ
- ・相互評価を行う際、言葉の選び方や表現の効果など、今までの学習内容を想起しながら和歌を評価しようとする。  
[主体的に学習に取り組む態度]

(2) 評価規準

評価規準（観点）
・和歌を伝える目的や意図に応じて作り、評価されたことを基にして自分の和歌を推敲している。 [思考・判断・表現]
(B(1)エ)
・進んで言葉の印象や表現技法の効果について考えたり、テーマに合った言葉を選んだりし、今までの学習を想起して和歌を評価しようとしている。 [主体的に学習に取り組む態度]

(3) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動	時間 (分)	指導上の留意点 ■実社会とのつながりに関する留意点
導入	<p>(1) 問題認識 奥ゆかしさを表現するためには、どのような表現を使うといいだろうか。</p> <p>(2) 学習課題の把握</p>	3	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     お互いの和歌を評価しあい、より奥ゆかしさが伝わる表現に推敲しよう。                 </div>			
展開	<p>(3) 本時の授業内容を確認する 和歌を相互評価し、良かった点やアドバイスなどを伝え合うことを確認する。 〈評価のポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たとえを表す表現技法が使われている。</li> <li>・感情を表す際に形容詞、形容動詞を使わない。</li> </ul> <p>(4) 授業のゴールを確認する。 各自で作った和歌を、テーマを明らかにしながら紹介し合い、使われている表現について評価を行うことを確認する。</p> <p>(5) 課題追究 ◎解決の見通し 「和歌を評価しあうことで、自分たちにどのような力がつくのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価することの目的を確認する。</li> </ul> <p>◎課題追究・解決 ・指定した3～4人のグループで和歌の相互評価を行</p>	37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価のポイントを黒板に貼り出す。直喩は避ける。</li> </ul> <p>■同様のテーマであっても、それぞれの感じ方は異なっており使われている表現には違いがあることを意識させる。</p> <p>■相手と自分の言語感覚を比較することで、今までにない言葉に対する考え方が生まれることが期待できることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時にロイロノート内にそ</li> </ul>

	<p>う。発表する内容は以下の3点。</p> <p>①本歌取りした和歌 ②盛り込んだテーマ ③訳</p> <p>・それぞれの和歌のテーマに沿った言葉選びについてグループ内で評価を行う。</p> <p><b>例（ロイロノートに示す）</b></p> <p>①「～」という言葉から「…」という状況がありありと伝わってきて、適切な言葉遣いだと思う。 ②このテーマであれば、「～」という言葉を使うよりも「…」のほうが気持ちがより伝わりやすくなるんじゃないかと思う。なぜなら…</p> <p><b>&lt;評価規準（観点）&gt;</b></p> <p>・和歌を伝える目的や意図に応じて作り、評価されたことを基にして自分の和歌を推敲している。</p> <p>（B（1）エ） [思考力, 判断力, 表現力等]</p> <p>・進んで言葉の印象や表現技法の効果について考えたり、テーマに合った言葉を選んだりし、今までの学習を想起して和歌を評価しようとしている。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p>	<p>れぞれが作成した和歌と訳をアップロードし、各グループの中であらかじめ閲覧させておく。</p> <p>・自分が行った評価について、根拠を明らかにしながら伝えるよう指示する。</p> <div data-bbox="1054 752 1431 1104" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【評価規準 B の例】</b></p> <p>・切ない夏の夕方を表現するため「涼しい風」を使っていたが、「ヒグラシの声」を使うことで、音声のメリハリが付き、静かになった瞬間の急に来る寂しさを表現できると思った。</p> </div>
<p>終 結</p>	<p>（6）まとめ</p> <p>前時までの「奥ゆかしさ」に対する認識が、本時を通してどのように変化したかをロイロノートのテキストに入力して提出する。</p>	<p>10</p> <p>・和歌の書き手の表現の仕方を評価することを、自分の用いる表現にも役立てるよう伝える。</p>

（4）板書計画

<p>※1 評価時間を十分なものとするため、ノート板書は省略し、ロイロノートへの送信とする。</p> <p>※2 「まとめ」以前の内容はあらかじめ黒板に書いておく。説明をしながら板書内容を生徒のロイロノートに送信していく。</p> <p>※3 「まとめ」以降については、授業の終末部分で生徒のロイロノートに送信する。</p>	<p>まとめ（※ロイロノートの「まとめ」を紹介後）</p> <p>奥ゆかしさを表す表現を身に付けることで、自身の表現がより多彩なものとなる。</p>	<p>素敵な出会い</p> <p>自分が知らなかった言葉</p> <p>新しい使い方</p>	<p>○評価⇨お互いの言語感覚を比較し、考えを伝えようとする。</p> <p>←期待できること</p>	<p>学習課題</p> <p>お互いの和歌の評価を通し、より奥ゆかしさが伝わる表現を発見しよう。</p>
--	--	--	---	--